

2006年1月26(木) 2006年1月27日(金)

総括「成長率が低すぎる！ = 9.9%の中国よりの苦言」

需給「郵政公社は為替市場で復活するか」

テクニカル「ポンド円、NZ円、カナダ円が反転上昇、日経平均が下落 = 移動平均線 21 日の場合」

当局「自国通貨債は一つだけ」

ID為替「為替は麻薬」

横浜湘南便り「地獄にいちばん近いヘブン = 長者町」

ドル円 114-117

ユーロ円 140-142

FX湘南IG (FSIG) 代表 野村雅道

(事務所 田園、山下、伊豆稲取) 中京大学講師

日経インデックス2000年 = 100) 1月25日東京引け 前回 1月20日からの変化 円 87.8 若干強し ドル 90.6 やや弱し ユーロ 120.9 強し 1月25日ドルインデックス IN NYBOT88.33 弱し CRB342.52 弱し 日経平均ドルベース1月25日東京引け 136.20 IMM円投機筋 1月17日 - 18259(前週比+1270)

1. 予定

(今週の予定)

23(月) 郵政公社発足、豪 4QPPI、米 景気先行指標

24(火) 日 第三次産業活動指数、EU財務省理事会、

25(水) 豪 4QCPI、世界経済フォーラム、独 IFO

26(木) 日 12月貿易統計、企業向けサービス価格指数、RBNZオフィシャルキャッシュレート、米 新規失業保険申請、耐久財受注

27(金) 日 CPI、小売売上、米 4QGDP、4Q個人消費、新規住宅販売件数

(来週の予定)

30(月) 日 鉱工業生産、米 個人所得

31(火) 日 雇用統計、家計調査、NZ 住宅建設許可、米 FOMC 消費者信頼感

指数

1(水) 米 バーナンキ氏FRB議長就任、建設支出、シカゴPMI

2(木) 米 失業保険申請

3(金) 米 雇用統計は

2.総括 「成長率が低すぎる！ = 9.9%の中国よりの苦言」

米国の金利上昇打ち止め感、欧州景気の若干の回復(独IFO指数の改善)、HIAの剥げ落ち、米国に一番影響の大きいイラン核開発問題などが米ドルに影を落としている。その中で円は先週からクロス円などで買いが入り始め、クロス円の21日移動平均線は上昇に転じている。日足のクロージングベースのP&Fも上昇している。ロンドンフィクシングベースで円売りが出ていることは個人だけではなく本邦法人も動いているということだろう。

米ドルの方向感 は明日の米国4Q GDPとバーナンキ新体制での来週のFOMCでさらに明らかになるだろう。4Qは2Q、3Qに較べれば減速する予想だ。

さて雰囲気では日本の景気回復、量的緩和解除見通しなどで国内的に、いや日銀的には円に強気の見通しがあるが、その他のことを考えると日本が世界で、世界的水準で上手くやっているとは思えない。

ライブドア問題以前から続く東証のシステム障害による日本市場への不安、ダボス会議では9.9%成長の中国から「日本は成長率が低すぎる」、米国AIGからは政府債務問題を指摘され世界への貢献度が低いとされている。中韓との靖国問題をめぐる外交不在、北朝鮮問題、ロシア機日本領土侵犯、米国の基地問題、牛肉輸入問題もあり、外交での不安は払拭されない。国内ではライブドア問題や耐震偽造問題もありけっして手放しで喜べる環境にはないし改革といっても看板が変わるだけで国民に目に見える経済的メリットはない。

さて今朝はNZ中銀がオフィシャルキャシュレートを7.25%に据置きとした。CPIがターゲットの3.2%の上限に張り付いていることもある。政治的にはNZ安、金利引下げを望みたいのだろうが、景気の強さからくる高いインフレ率からは無理であり、そうすればターゲットの上限を超えてしまうだろう。中銀はHPで示しているようにインフレターゲット政策には自信を持っているのでCPIが強い限り金利政策は変えられない。輸入超過国でNZ安にするとさらにインフレ圧力が高まるので舵取りは難しい。収益だけを追い国際的配慮のない日本の証券会社の振る舞いに文句を言いた

くなるのは理解できる。

3.需給 「郵政公社は為替市場で復活するか」

郵政公社が発足した。郵貯簡保と言えれば世界最大の機関投資家で運用資産は郵貯が 205 兆円、簡保が 119 兆円、合計 324 兆円もある。そのうち外債運用は郵貯が 3.1 兆円、簡保が 1.8 兆円で極めて小さい。両機関とも半分以上が国債運用でありすなわち個人は日本国債を買いまくっていることとなっている。

ただ総資産の中では外債は取るに足らないシェアだが、それが為替市場に与える影響では大きい金額だ。最近 5 年間の残高を見るとやはり郵政民営化もあったので外債投資は郵貯では現状維持、簡保は漸減していた。5 年前の簡保の外債残高はほぼ郵貯と同規模の 3 兆円から 4 兆円あった。1 年前までは数年概ね円高推移していたのはこの影響もあったと思う。新公社ではもちろん他の金融機関との競争もあり外債へも積極運用してくると見られる。既に昨年と比べれば簡保の外債運用も微増している。(以上郵政公社ホームページ参照)

また郵貯や簡保は旧体制ならば取引金融機関が決まっていたので市場は郵貯簡保の動きを推測出来たわけであるが、民間になれば直接市場に参加することも可能ではないだろうか。派手なことはやらないかもしれないが、そうすればより市場へのインパクトは大きくなるだろう。

4.テクニカル「ポンド円、NZ円、カナダ円が反転上昇、日経平均が下落 = 移動平均線 21 日の場合」

前回から 21 日移動平均線を取り上げている。野球の試合前の準備運動、相手の情報収集というか、すし屋さんならネタの仕入れというか、数多くある本番前、戦闘前の準備の一つだ。

12月初旬の全面円高転換から先週いくつかのクロス円で円安転換し21日線移動平均線の向きが変わったこともそれを証明した。今回(昨日)さらにポンド円、NZ円、カナダ円の21日線が上向き、すなわち円安方向へ転換した。逆に日経平均21日線は下向きに転換した。円関連ではドル円だけがまだ下向きである。クロス円主導で円安転換が行われている。次回FOMCは別にしても米国金利引き上げの打ち止め感が出ていることと、欧州の若干の景気回復、イラン核開発問題(もちろん欧州もイランに敵対しているが)などが背景にあるのだろう。

直近の 21 日線は、以下の通りである。

上向き組み = ユーロ円、ユーロドル、豪ドル円、スイス円、ポンド円、NZ円、カナダ円

下向き組 = ドル円、日経平均

5. リスク(想定済みにしてビックリしてはいけない)「長引くイラク、パレスチナ、日中問題」

ブッシュ進退(盗聴問題)、北朝鮮暴発(北朝鮮開国?)、イラン、地震、ビンラディン現る、日本物格上げ、米国物格下げ、貿易戦争(FTA)、米軍イラク撤退、領土教科書靖国問題、アジアでのテロ、イラク混迷

6. 当局「為替は麻薬」

当局の方が為替を語るのが好きなのは要の東西を問わない。基本的には自国経済にフェイバーになることを望んで通貨高も通貨安のコメントもするが、速水元日銀総裁のように常に円高(かつ金融引き締め)のコメントをする人もいた。榊原さんも多くコメントをして相場を動かしていたが職務を離れた現在も影響が衰えてもコメントはなさるようだ。余程快感があったのだろう。

金利などと違ってしかるべきポストにいる人がコメントすれば大きく動く。自分の言葉で動けば仕事をした気がするし帰宅しても妻や子供に自慢したり出来て楽しいし自分は相場の天才とまで思ってしまうかもしれない。短い言葉で動かせるのだからこんな楽な仕事はない。為替相場はまことに軽いものだ。ただ相場は動いても所期の目的は何も達成しないのが為替相場だ。プラザ合意でドル安を、日米貿易不均衡で円高を口先介入も含めて達成したが、相場は動いたが不均衡はそのままどころか拡大した。今まさにニュージーランドも貿易不均衡是正でNZ安を言葉で達成しようとしている。カレン財務相は若干のNZ安を喜んでいるかもしれない。でも本来の狙いの不均衡是正はそのまま続くであろう。日米が経験したように半分以下の価値にドルが下がってもまだGM首脳は現在の円高が不均衡を生んでいると思っている。相場は動いても不均衡は動かない。

7. ID 為替「自国通貨債は一つだけ」

今月後半の日本の個人向けの新発外債販売は 14 あった。米ドル 3、豪ドル 5、NZドル 2、メキシコペソ 2、ハンガリーフォリントと南アランド各 1 であった。

そのうち当該通貨国の企業が発行するのはウェストパック銀行の豪ドル債の 1 件だけであった。他はすべて高金利通貨の国を利用して日本の国の個人に第三国の企業や国際機関の債券を売りつけるものである。

このような債券発行で金利水準は揺らがないだろうが、脆弱な為替市場では相場水準は起債時には上がってしまうだろう。もちろん途中売買や満期の時は逆の減少が起こるのだが、資金調達者は再借り入れしたいところもあるので、買いのエネルギーほど売りのエネルギーは大きくないだろう。

今、第三者による自国通貨での起債と第三国への販売に不満を表しているニュージーランドだが、インフレを抑えるのであれば通貨高も一助となるのだが。為替変動(自国通貨安)で自国の輸出業者の不満を抑えるのは手っ取り早い策のようだが、実は問題は遅々として改善しない。

内需拡大 - 規制緩和 - 市場開放 - 小政府 - 財政均衡 - 自己責任 - 公明正大
50 超円高 - 100 円高 - 150 - 普通円 - 200 円安 - 250 - 超円安 -

「世界一のデフレと物価高の共存が日本の弱点」「国を選ぶ時代」

FX湘南社 是「面白く正しく」

FSIG FX湘南投資グループ 代表 野村雅道 中京大学講師
(事務所 横浜田園、山下公園、伊豆稲取)

「付録 * 横浜湘南便り*」

「**地獄にいちばん近いヘブン=長者町**」

いつも横浜の陽のあたる場所、どちらかと言えば海側を散歩しているので、たまにはと逆方向へと足を伸ばした。黒澤映画の「天国と地獄」の地獄の方、日の出町、黄金町あたりを歩くとクレイジーケンバンドの「長者町ブルース」にぴったりの町並みに出会う。

「ハンゲル文字のネオン管、異星からやってきたホステス

コリアにフィリピン、タイランド 国籍不明のダンサー
バンドが始まれば喧嘩も始まる
ダークサイドヨコハマ 地獄にいちばん近いヘブン 』

この横浜本牧生まれのソウルフルなクレイジーケンバンドはベ이스ターズの応援歌「BE A HERO」や市立高校の校歌、はたまた市役所のG30(ゴミを 30%削減する)キャンペーンの歌まで作っているのには驚いた。地域密着の歌だ。同じご当地ソング「名古屋よいとこやっとかめ」を歌う「つボイノリオ」を思い出した。

長者町からさらに足を伸ばすと横浜の台所「横浜橋商店街」にぶつかった。安売りで有名なが、もともと私自身価格の基準を持っていないので安いかわからなかった。ただ中華街同様、日本語以外のアジア語も飛び交っていて活気溢れる下町であった。中国や韓国の方がハマの経済を支えている。すぐ近くには大衆演劇の「三吉演芸場」がある。月変わりて地方から来た劇団が演じる。現在は「市川千太郎劇団」が終わり「劇団蝶々」がやっている。帰りはレトロな三吉橋商店街に寄り日本三大ドヤ街の寿町をやや緊張しつつ通って山下町へ戻った。下町も味があるし人間らしい。

(写真は三吉演芸場)



